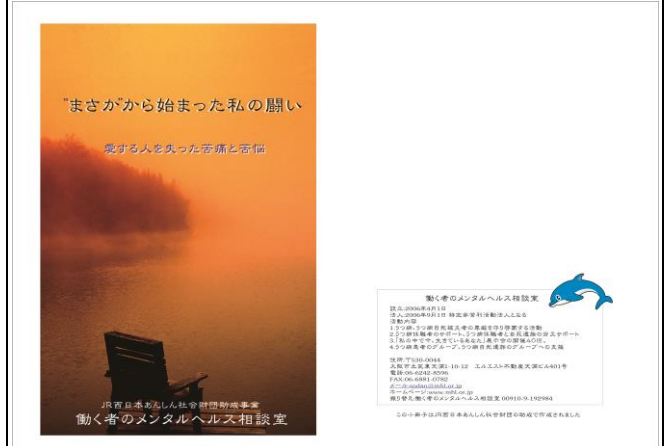


平成 27 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	働く者のメンタルヘルス相談室
活動テーマ	自死遺族の苦悩や自責感を和らげる相互支援のための小冊子の発行



自死遺族の最大の苦悩は強い自責感に苛まれることにあります。自死遺族の自責感をどうやわらげるか。これが課題です。この課題には全国の自死遺族自助グループと自死問題を研究する若手研究者との協力関係で研究と実践を結びつける方法で挑戦しました。その中で次の3点が重要ではないかとの仮説を得ました。

- ①自分や第三者の経験を共有することで自分自身を客観的に見ることができるよう支援すること
- ②自死した亡き人の尊厳が守られること
- ③自責感を受容できるプロセスを解明することで、支援のプログラムを組み立てること

平成27年度の小冊子は自分や第三者の経験を共有することに力点が置かれました。平成28年度は自死した亡き人の尊厳をどう守るかに焦点を当てます。平成29年度はこれまでの集大成として自責感を受容するプロセスを分析し、支援プログラムの構築にかかります。こうした課題に向けPDCAサイクルを回しながら接近したいと考えています。

写真はワークショップ及び冊子が配られた自死遺族フォーラムの様子です

2015年度の活動は、2016年度に引き継がれ「大阪自死遺族フォーラム | N枚方」テーマ「愛する人がいた そして愛する人は逝ってしまった 自死 追い詰められた死を考える」として大きく開花しようとしています。このイベントは地元枚方市と大阪府心の健康総合センターの後援を得ています。フォーラムは10月29日1時から枚方ラポール大研修室で開催予定です。(京阪枚方市駅下車、関西医科大学病院となり)